

鹿児島医セン

連携室だより

2007.9 No.18

鹿児島医療センター（循環器・がん専門施設）

第1回 緩和ケア研修会を開催

当医療センターが、鹿児島市医療圏のがん診療連携拠点病院の指定を受けてから1年になります。この間、診療体制、研修体制、情報提供体制について更なる充実を図っているところです。緩和医療の提供につきましても緩和ケアチームを立ち上げ、活動を開始しておりますが、まだまだ経験不足であり、スタッフ一同日々奮闘している状況です。

そこで今回、当院におけるがん医療、緩和ケアの充実、および、地域施設との連携強化を目的に緩和ケア研修会を平成19年8月10日に当センター会議室で開催致しました。研修会は、認定看護師として各施設でご活躍中の2人をお招きし、

1 「一般病棟における緩和ケアの実際」

独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター

がん性疼痛看護認定看護師 山崎 弘子 先生

2 「化学療法におけるがん化学療法認定看護師の役割」

独立行政法人国立病院機構 九州医療センター

がん化学療法看護認定看護師 土井 晴代 先生

という内容で講演していただきました。

当日は、狭い会場にもかかわらず、院外101名、院内55名の参加がありました。職種も医師、看護師、訪問看護師、薬剤師、理学療法士、医事の方と多岐にわたりました。また、緩和ケアチームのメンバーや立ち上げを準備している方、化学療法室に勤務している方も多く見られ、がん医療への関心が高まっている現状が窺えました。患者さんとの関わりやきめ細かいケアの必要性、チーム医療、リスクマネジメント、また、事例を用いて、緩和ケア、化学療法について看護の専門性について幅広く講演いただきました。参加者のアンケート



からも、看護師の専門性を高めていきたいなど今回の研修会が好評頂いたのがよくわかり、今後、更に認定看護師を目指す看護師の方が増えてくるのではないかとと思われる内容でした。

私たちの緩和ケアチームもまだ歩き始めたばかりで、院内の活動もこれからというところです。今後、疼痛治療など緩和医療の基本的なことから事例を用いた研修会、各職種が専門性を高められるような講演会などを企画し、私たちがチームとしての進化を図りながら、地域施設との連携が更に緊密になるよう内容にしていければと思います。次回の研修会にもぜひ多くの方に参加いただきますようお願い致します。

（緩和ケアチームチーフ・耳鼻咽喉科医長 松崎 勉）

がん治療研修会のご案内

当院会議室において、がん治療研修会を開催致します。

日時 開催日：平成19年9月21日（金） 開催時間：19:00～20:00

テーマ 「次世代の特異的ながん免疫療法：樹状細胞療法の現状」

講師 テラ株式会社取締役最高科学責任者
セレンクリニック頭頸部・免疫療法外来担当 岡本 正人 先生

参加希望の方は、地域医療連携室までご連絡下さい。

独立行政法人国立病院機構 鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校

平成20年度 学生募集



独立行政法人国立病院機構鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校は看護専門課程(看護学科)三年課程で、定員120名の看護専門学校です。母体病院である鹿児島医療センターは西郷隆盛の私学校跡地にあります。近郊には黎明館、旧島津家別邸、仙巖園などの歴史の名所や水族館、市立美術館などがあります。

本校の教育目的は看護師として必要な知識及び技術を教授し、独立行政法人国立病院機構及び社会に貢献する有能な人材を育成することです。入学後は看護師に必要な基礎・専門基礎・専門分野の知識・技術を学習し、独立行政法人国立病院機構鹿児島医療センター、南九州病院、鹿児島市立病院などにて実習を行います。母体病院である鹿児島医療センターの特徴を生かし、循環器看護やがん看護の講義や実習に力を入れています。卒業後は看護師国家試験にて看護師免許を取得し、就職、または看護大学・看護教員養成課程、助産師・保健師学校へ進学することができます。

平成19年度卒業生の就職希望者の就職率は100%でした。

本校の平成20年度入学試験を下記のように計画しています。看護への関心を持ち、医療専門職への強い意欲のある高校生、社会人、一般の方々、本校で看護師を目指してともに学びませんか。多くの方のチャレンジをお待ちしています。



確かな知識、確かな技術、
あなたの思いがカタチになる!

● 出願期間・試験期日・選抜方法

試験種別	出願期間	試験期日	選抜方法	合格発表日時
一般	H19.12.10(月)~ H20.1.16(水)	<一次試験> H20.1.23(水)	国語総合、現代文 英語I・II、数学I ※マークシート方式	H20.2.5(火) 9時
		<二次試験> H20.2.15(金)	面接 ※一次合格者対象	H20.2.20(水) 9時
推薦 ※指定校制	H19.11.8(木)~ H19.11.29(木)	H19.12.4(火)	小論文、英語I・II 面接	H19.12.12(水)9時
社会人	H19.11.8(木)~ H19.11.29(木)	H19.12.4(火)	小論文、英語I・II 面接	H19.12.12(水)9時

● 受付時間:

9時~17時(12時~13時は除く)
※土・日曜日、祝祭日、年末年始の期間
《H19.12.29(土)~H20.1.3(木)》は受け付けません。
郵送の場合も最終日の17時必着とします。

● 出願手続き:

願書・受験票・高等学校調査書が必要。
(あるいは成績証明書・修了証明書または合格証書の写し)

● 入学検定料: 20,000円

● 学校案内・募集要項請求方法:

返信用封筒(角2号33cm×24cm)に240円切手を貼り、郵便番号、住所、氏名を明記したものを同封してください。直接取りに来られてもかまいません。

● 連絡先:

〒890-0005 鹿児島市下伊敷一丁目52番17号
独立行政法人国立病院機構
鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校 入試係

登録医医療機関紹介 第6回

健三郎今村クリニック

健三郎クリニックは内科消化器科を標榜し平成13年4月に開院し今年で7年目になります。場所は朝日通りの南銀本店隣のチャイムビル3Fにあります。

“健三郎クリニック”は変わったネーミングですねとよく聞かれます。私の従兄が院長をしている今村クリニックが近くにあり当初朝日通りクリニックを考えていましたが、これはファッションクリニックと間違われるのではないかという忠告があり没となりました。以前私が勤務していた中央病院では多くの患者さんに“健三郎先生”と呼ばれていたため、“健三郎クリニック”が最も親しみ易い名前ではないかと思いついてこのネーミングにしました。スタッフは医師1人、看護婦4人、事務3人(2人パート)、薬剤師1人の計9人です。当院のモットーは、“患者さんの話をよく聞きましょう。”という事で、スタッフ全員がこれを心がけています。この一環として待っている患者さんにはおいしいお茶を出す様にしています。この中で看護婦や事務の女性などから私の気付かなかった思いがけない情報を得る事がよくあります。

私は九大2内科および福大筑紫病院消化器科で消化器疾患の診断に長くたずさわってきた関係で消化器科が専門で、胃大腸合わせて1ヶ月100例位の内視鏡検査を行っています。ただ開業医の常として、高血圧、糖



尿病、高脂血症、虚血性心疾患などの患者さんも多く見えています。医療センターには各科にお世話になっていますが特に循環器科の迅速でかつ適格な診断と治療指針のご指導は私の日常診療の大きな支えとなっています。心カテ等で入院をお願いした患者さんが主治医だけでなく部長先生も皆親切で、毎日ベッドサイドに来てもらえると喜んでいらっしやいます。脳血管内科にも時々お世話になりますが、SCUの造設は私ども開業医にとって大きな安心感を与えてくれました。一人でもrt-PA治療の適応となる様な患者さんをお願いできる様子を光らせていきたいと思っています。今後ともよろしくお願ひします。

(院長 今村 健三郎)

ひとくち 診療メモ

「分子標的治療薬」

近年、細胞の悪性化、癌細胞の増殖の仕組み(分子機構)に関わる研究が進んできており、これらの研究の一部は臨床応用されつつあります。

慢性骨髄性白血病(CML)において9番染色体と22番染色体に相互転座が起きていることは、フィラデルフィア染色体として古くから知られていました。その後、9番染色体上の abl 遺伝子が22番染色体上の bcr 遺伝子とくっつくことで細胞増殖に関わる蛋白がどんどん作られ、CML発症につながっていることが判明してきました。この蛋白の働きを抑えることを目的として研究されたものの一つが、イマチニブ(製品名グリベック)です。現在、イマチニブはCML治療の第一選択薬となっています。イマチニブが導入される前は、インターフェロンが奏効した患者さんや骨髄移植を受けた患者さんを除くと、発病後3-5年の経過で急性転化を起こし亡くなっていましたが、イマチニブ導入後は、多くの患者さんと臨床的有効性が確認され長期生存がえられています。

イマチニブのみでなく、癌細胞の分子機構の解析により特定の分子を標的にしたお薬(分子標的治療薬と呼ばれています)が次々と開発され、造血管腫瘍の分野だけでなく固形癌の治療(肺がん、乳がん、大腸がんなど)にも導入されてきました。分子標的治療薬は、治療効果は高いものの経費の問題や長期使用による人体への影響は未知であるといった問題もありますが、今後その開発はスピードアップされると思われ、がん治療は変わりつつあるといえます。

(統括診療部長(血液内科) 花田 修一)

新new任 紹face介



脳血管内科医長

かんだ なおあき
神田 直昭

平成6年鹿児島大学卒業です。本年5月より赴任いたしました。

脳血管障害を専門に診療しています。

国立病院の枠にとらわれず、患者様本位の医療をおこなっていきたくと考えています。

若輩者故、いろいろと至らない点もあろうかと存じますが、よろしく願いいたします。



東3病棟看護師長

なかもと
中元 めぐみ

本年度4月より、都城病院より昇任となり東3階病棟で勤務することとなりました。宮崎出身で、大学病院、都城病院で手術室、産婦人科、NICUや外科、内科などの混合病棟で勤務してきました。産婦人科中心の女性の混合病棟で、女性のライフサイクル全般に関わることのできるこの病棟はとても魅力的です。また、10月からは助産師外来開設予定ですので、周りの方々にも是非ご紹介下さい。ちなみに私は助産師ですが、まだ少子化に貢献できていませんのでこれから頑張っていきたいと思っております。よろしくお祈りいたします。



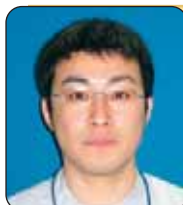
西3病棟看護師長

わだ たみこ
和田 多美子

H19年4月1日付で長崎医療センターより配置替えでまいりました。

西3階病棟は病棟編成が変わりスタッフも半数以上が変わったという状況で毎日が大変でしたが最近やっと落ち着いてきました。当院も7月からオーダリングが始まりましたのでうれしい限りです。メリットが活かせるように頑張りたいと思っています。

鹿児島は初めてですので観光・食べ物等も楽しみたいと思っていますのでよろしくお祈りいたします。



理学療法士

えのき だいすけ
榎木 大介

今年1月より指宿病院より転任してまいりました。前任地と比べ規模も大きく戸惑うことの多い毎日です。また4月よりリハビリテーション科の体制も一新し、活動の幅も質も更に発展したものになるよう尽力してまいりたいと思っております。スタッフの皆様にもご迷惑をかける事も多いとは思いますがよろしくお祈り致します。



理学療法士

やました まゆこ
山下 真由子

平成19年に福岡東医療センター附属リハビリテーション学院理学療法学科を卒業し、今年度より独立行政法人国立病院機構へ入職、当院へ配属となりました。理学療法士・機構職員として1年目であり、色々ご迷惑をおかけすることもあるかと思っておりますが、ご指導の程よろしくお祈りいたします。



企画課 専門職 (地域連携室)

おおわたり ひなこ
大渡 日奈子

はじめまして医事専門職の大渡です。4月1日付九州医療センターより昇任して参りはや5ヶ月が経ちました。着任早々7月からのオーダリング開始準備等に追われ右往左往の毎日でしたが、システム導入後3ヶ月目となりだいぶ落ち着いてきたように思います。鹿児島の地は初めてでまだまだ不慣れな点もありますが、今後も情報の収集や発信等、積極的に関わって行きたいと思っておりますので、どうぞよろしくお祈りいたします。

お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター (循環器・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号
(代)TEL 099 (223) 1151 FAX 099 (226) 9246
<http://www.kagomc.jp>
脳卒中ホットライン ▶▶ 090-3327-5765

〈地域医療連携室〉 濱田、大渡、平田、中島、田添、池上、善福
直通電話 ▶▶ 099-223-4425
フリーダイヤル専用FAX ▶▶ 0120-334-476
※休日・時間外は当直者で対応します。

